



毎日どうにもはっきりしない天気やら、経済状況やらが続いていて、すっきりしないことおびただしい。打ち合わせと言うものがいくつも続いた。打ち合わせが終わると、「ではちょっと寄ってきますか。」という話になって「まあ、ちょっとなら。」ということになり、まあ、元気良く帰ってくるのだが、最近とはいうか、もう何十年も前にわかっていてもいいのだが、そんな元気も結構、根拠も、よりどころも雲のように薄いもので、翌朝になると、霧散してとりとめもなく、どんよりとしたものだけが残っている現実がよりはっきり身にしみて

きている。だからと言って、酒のなほ席で、高揚とした滑らかな話など、日本人の伝統として出来るわけもなく。ついつい酒こたよってしまう。

本当に、イスラームの諸氏たちは、酒の力も借りずどうやって生きているのだ。どうやって、日々の人々との付き合いを重ねているのだと、思ってしまう。確かに、お茶を飲み、楽器を鳴らし、タゴールの唄を吟唱し、ある一定の高揚感の中に漂っていくのだらうし、テレビや映画の中で練り込られる、男女のリズミカルな踊りや歌に、目がうつろいになってゆくのだが、結局は論理の巧妙な環を構築しながらその美しさ、完璧さに酔っていきように思えてならない。人が集まると、決まって、力強い演説の交歓がはじまり、互いの論理の環が絡み合い、螺旋となって天を目指し始めたり、血走った目で問い詰めたらし始める。

日本人にはそんな論理生は希薄だと思っている。今、いろいろな罪について考えていたのだが、イスラームの犯罪は、論理の環の果てに起こり、日本の犯罪は、情念のからみの果てに起こっていると感じている。それが何なのだ、それと日本のノンベイ問題とどうかかわるのだと言うだろうが、最近、飲むと頭の隅にそんなことが浮かんだり沈んだりしているのだ。

論理生に欠けて、いまいかに生きているように見えて、それでどうなんだ。それでいじやあないか、いまいかに、穏やかに、笑ったり苦しんだりするばかりで、大して進歩していないと思われていてもいじやあないかと思うんです。

20代から時々異なる文化の中に飛び込んで、一見同じ顔の人間達の、どこが同じでどこが違うのか、互いに当たり前だと思う心や、常識だと思う心の奥までのような違いがあるのかと考え続けてきた。そして、その延長上にまた来月のバングラ行きが決まり、また、何か話さねばならないのだろうが、今度こそお互いに、あるがままのヒトとして、アホウのように、受け止めて互いの心が伝わりあうようなことにはならないものかと、そう思っている。そんな普遍的技術はないものか、良くわからないのだが、とりあえず、愛されることなのかもしれない、無条件で愛することかもしれない、そんな抹茶くさいことをじめじめした中で考えています。

ブログのアドレス <http://blog.goo.ne.jp/gnomesjp/> まだやっています。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03 5600 0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com